

新フェローの紹介

フェロー会議より理事会へ新フェローとして青木兼一、加瀬滋男、三浦良一、本告光男、渡辺 浩の5氏が推薦され、理事会で承認されましたのでご紹介します。

なお、各氏は長年ORの研究と応用に業績を上げられたほか、青木・加瀬・三浦・本告の諸氏は、特に当学会の地方支部の発展に、また渡辺氏は、OR学会の創設期から長年にわたって学会の基礎づくりに、多大の貢献をされました。

青木 兼一 (あおきけんいち) 氏

大正15年4月18日生

現住所 広島市東区中山西1丁目7-11-5

学 歴 昭和25年3月 早稲田大学理工学部電気工学科卒業

職 歴 昭和26年~39年 中国電力株式会社勤務

昭和39年7月 広島大学工学部助教授

昭和42年10月 同上教授現在に至る



OR学会関係

評議員 昭和47年より現在まで

理 事 昭和50, 51年

中国四国支部長 昭和53年より現在まで

業新聞社)

コンピュータとOR(同上)

数理計画法入門(日本放送出版協会)

OR学会関係

評議員 昭和45年~56年

関西支部副支部長 昭和52, 53年

同上支部長 昭和54, 55年

三浦 良一 (みうらりょういち) 氏

大正8年3月23日生

現住所 札幌市東区北26条東5丁目

学 歴 昭和17年9月 北海道帝国大学工学部電気工学科卒業

職 歴 昭和17年9月 北海道帝国大学工学部講師

昭和22年7月 同上

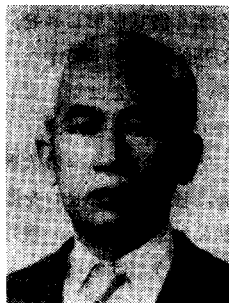
助教授

昭和34年7月 北海道大学教授

昭和54年4月 旭川工業高等専門学校校長

北海道大学名誉教授

昭和59年4月 旭川工業高等専門学校名誉教授



OR学会関係

評議員 昭和53~58年

北海道支部長 昭和53, 54年

加瀬 滋男 (かせしげお) 氏

大正11年6月18日生

現住所 杉並区西荻北2-10-22-404

学 歴 昭和20年9月 東大第二工学部造兵学科卒業

職 歴 昭和23年8月 (名)十川ゴム製造所入社

昭和32年1月 同上
研究部長

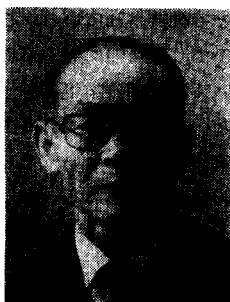
昭和33年2月 日本ヴィクトリック株式会社取締役

昭和33年3月 三菱ゴム株式会社取締役

昭和34年5月 同上 常務取締役

昭和35年2月 大阪府立大学教授

昭和59年4月 同上 名誉教授、放送大学教授



著 書 オペレーションズリサーチの手ほどき(日刊工

本告 光男 (もとおりみつお) 氏

大正14年6月7日生

現住所 愛知県愛知郡日進町岩崎根裏37-11

学歴 昭和22年3月 多賀工業専門学校電気科卒業

職歴 昭和22年4月 中部配電株式会社入社

昭和26年5月 中部電力株式会社編入

昭和44年6月 同上 情報処理センター設計課長

昭和54年7月 同上 支配人, 情報システム部長

昭和56年7月 同上 支配人, 情報システム担当

昭和58年7月 中電コンピュータ・サービス株式会社取締役現在に至る



渡辺 浩 (わたなべひろし) 氏

昭和4年2月10日生

現住所 狛江市猪方2-3-18

学歴 昭和27年3月 東京大学理学部数学科(旧制)卒業

職歴 昭和40年4月 文部省統計数理研究所第3研究部OR研究室長

昭和43年10月 東北大学経済学部教授

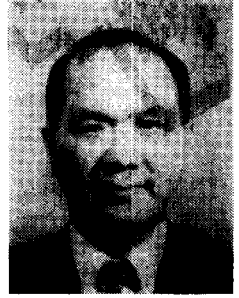
昭和50年4月 筑波大学社会工学系教授現在に至る。

著書 数理計画法(青沼龍雄氏との共著)筑摩書房他OR学会関係

評議員 昭和37~52年, 56年より現在まで

理事 昭和41~44, 47~51年

副会長 昭和56, 57年



OR学会関係

理事 昭和46, 47年

中部支部長 昭和47, 48, 53, 54年

副会長 昭和56, 57年

書評

芝 祐順・渡部 洋・石塚智一 編

統計用語辞典

新曜社 B5判 374頁 1984年5月発行 定価3900円

統計関係の本がぞくぞくと出版され、ビジネスマンにとって統計の知識が不可欠のものとなってきているいま、この「辞典」は、統計学をある程度マスターした大学生や、ビジネスマンにとって、重宝な辞典になると思います。この「辞典」の特徴は、次の3項目に集約されます。

まず第1に「見出し語」が多く、広範囲におよんでいることです。統計学固有の用語だけでなく、統計手法に関連した他の専門分野の用語(たとえば、線形代数とか電子計算機に関連した用語等)についても、広範囲にかつ、くわしく解説されています。

2番目としては、各「見出し語」の解説の末尾に参

考文献(比較的入手しやすい、著名な単行本)がついていることです。その用語の背景や、もっとくわしい内容を知りたいときには、たいへん便利だと思えます。ただ残念なことは、その本のどの部分を参照すればよいのか(第何章とか何頁とか)具体的な場所の指示がないので、入門者にとっては、辛いと思われま

す。3番目の特徴は、索引がしっかりしていることです。具体的には、和文、英文の両方の索引欄が用意されており、また索引欄で、「見出し語」と「解説で用いた語」の区別がつくようになっていることです。これらのことは、実際に用語を調べるときたいへん調法です。

(石川明彦 東京理科大)